

すべての子どもが 日本の子どもとして 大切に守られるために

子ども・子育て施策・社会的養護施策・障害児施策の垣根を
越えて、妊娠期からの包括的支援と青年期までの機関連携・
子ども家庭福祉のあるべき姿を考える

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

日本の子どもの 未来を考える研究会 第2回シンポジウム

講師：高橋 睦子氏

講師略歴

京都出身。大阪外国語大学デンマーク語科卒業。外務省勤務（語学専門職、本省勤務及び在フィンランド大使館書記官）の後に研究者へ転身。フィンランド国立タンペレ大学で日本人として初めて博士号取得（社会政策）。宮崎国際大学（1996-2000年）、島根県立大学総合政策学部（2000-2006年）を経て、2006年度から吉備国際大学勤務。現在、同大学大学院社会福祉学研究科長・教授（福祉政策論）。主要著書：『ネウボラ フィンランドの出産・子育て支援』（かもがわ出版、2015年）、『離別後の家族関係を問い直す』（共編著、法律文化社、2016年）、『オープンダイアログを実践する』（共著、日本評論社、2016年）など。

プログラム

- 13:00 始まりの挨拶 ～この研究会の目指すもの～
- 13:05 **I. 基調講演**
テーマ「子どもと子育て家族を包み込む
『地域の実家』を目指して」
～フィンランドのネウボラから学ぶ～
講師：高橋 睦子氏（吉備国際大学教授（福祉政策論））
- 14:05 **II. 市町村アンケート/インタビュー調査
分析報告**
報告者：佐藤まゆみ（和洋女子大学家政学群准教授）
永野 咲（日本学術振興会特別研究員 P.D.）
（10分休憩）
- 14:45 **シンポジウム「子どもをはぐくむ福祉社会」**
子 育 て 村松 幹子（全国保育士会副会長）
里 親 藤井 康弘（元厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長）
障 害 児 米山 明（心身障害児総合医療療育センター外来療育部長）
ネウボラ視察 古家 好恵（社会福祉法人麦の子会）
助 言 者 柏女 霊峰（淑徳大学教授）
司 会 北川 聡子（社会福祉法人麦の子会）
- 16:15 終わりの挨拶
湯淺 民子（社会福祉法人北光福祉会ひまわり学園園長）

日時

平成
30年2月10日(土)
13:00～16:15(12:30開場)

会場

日本財団2階大会議室

東京都港区赤坂1丁目2番2号
日本財団ビル

主催

日本の子どもの未来を考える研究会

座長 柏女 霊峰（淑徳大学教授）
副座長 藤井 康弘（元 厚生労働省社会・援護局
障害保健福祉部長）

北川 聡子（福）麦の子会 総合施設長

協力

日本財団

参加費

大人1名
500円

お申し込み

下記のお問い合わせ先に、氏名（複数可）・
職種・経験年数・所属・所属住所・連絡先
を明記し、FAXまたはメールでお申し込み
ください。（担当：笠井・鈴木）

お問い合わせ

日本の子どもの未来を考える研究会 事務局

〒007-0836 札幌市東区北36条東9丁目1番1号（福）麦の子会内

TEL (011)733-9251 FAX (011)769-0847

e-mail: muginoko@muginoko.com

申し込み用紙

ふりがな 名前	職種	経験年数
ふりがな 名前	職種	経験年数
ふりがな 名前	職種	経験年数
住所		
所属	事業所区分（記入例：里親、障害児関係、認定こども園、など）	
TEL	FAX	E-mail
質問事項等		

※経験年数は、子ども家庭福祉の支援経験を記入してください。

FAX : 011-769-0847
e-mail : muginoko@muginoko.com

締め切り：平成30年2月2日(金)

《 アクセス 》



◆地下鉄

東京メトロ 銀座線「虎ノ門駅」

<バリアフリールート>3番出口よりエレベーターで地上まで上がり、外堀通りを溜池山王方面に直進。JT本社ビル前の信号を渡って正面。徒歩5分。

<バリアフリールート>11番出口よりエレベーターで地上まで上がり、溜池山王方面に直進。特許庁前の信号を外堀通りを横断。徒歩5分。

東京メトロ 南北線・銀座線「溜池山王駅」

9番出口より出て、首都高速のガード下の信号を渡り直進。徒歩5分。

<バリアフリールート>7番出口は地上までのエレベーターあり。

東京メトロ 丸の内線・千代田線「国会議事堂前駅」

3番出口より首相官邸前を左方向に直進。徒歩5分。特許庁側の歩道に階段あり。

<バリアフリールート>丸の内線側2番出口は地上までのエレベーターあり。

◆JR東京駅から

東京メトロ 丸の内線に乗換え→「国会議事堂前駅」（駅間所要時間7分）

*お越しの際には、公共交通機関をご利用くださいますよう、お願いします。

日本の子どもの未来を考える研究会とは・・・

地域には、さまざまな困り感を抱える子どもと家族が暮らしています。

子育てで不安・貧困・DV・虐待・発達障害・医療ケアニーズ・不登校・いじめ・非行・親の精神疾患など多様化しています。しかし、子どもの困り感は、家庭の孤立や福祉サービスの不足や連携のなさなど、底辺でつながっています。様々な相談機関がバラバラになっている状況に対して、それぞれの専門性を活かし横断的なつながりの中で連携して、子どもと家族を支える新たな仕組みを考え、つくり上げようとしている研究会です。

【研究会メンバー】

【座長】柏女霊峰(淑徳大学教授)、**【副座長】**藤井康弘(元厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長)、北川聡子(社会福祉法人麦の子会)、**【子ども子育て】**古渡一秀(全国認定こども園協会副代表理事)、村松幹子(全国保育士会副会長)、**【医療】**米山明(心身障害児総合医療療育センター外来療育部長)、**【社会的養護】**長谷川寛治(日本ファミリーホーム協議会副会長)、藤野興一(鳥取こども学園理事長:全国児童養護施設協議会前会長)、片桐弥生(山形学園:全国児童養護施設協議会)、**【障害児】**光真坊浩史(品川区立品川児童学園施設長)、岡崎俊彦(奥中山学園園長)、湯浅民子(ひまわり学園園長)、**【里親支援】**渡邊守(NPO法人キアアセット)、**【マスコミ関係】**新井直之(NHK大阪ディレクター)、**【学識経験者】**大塚晃(上智大学教授)、佐藤まゆみ(和洋女子大学准教授)、新保幸男(神奈川県立保健福祉大学教授)、永野咲(日本学術振興会特別研究員P.D.)、**【オブザーバー】**大西延英(全国里親会事務局長)、加藤正仁(CDS JAPAN会長)、青木建(国立武蔵野学院院長)、**【アドバイザー】**田中哲(東京都立小児総合医療センター副院長)